

令和5年度

# 授業改善推進プラン【小学校】

- ①令和5年度北区立小学校学力向上を図るための全体計画(様式1)
- ②令和5年度第2～6学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析(様式2)
- ③指導方法の課題分析と具体的な授業改善案 4教科(様式3)

東京都北区立堀船小学校

令和5年度「北区基礎・基本の定着度調査」を受けての各教科の分析

国語	観点別、基礎・活用の全ての項目で正答率が目標値を上回っている。特に3年生は教科全体の目標値が10ポイント以上高く、「主体的に学習の取り組む態度」では20ポイント上回っている。しかし、5年生・6年生のは他学年に比べて上回り幅が小さい。俳句作りなど、児童の興味・関心を引くような学習を取り入れて豊かな言語活動を育む指導を充実させたり、日常的に読書に親しませたりして、自ら学ぶ意欲を高めていく必要がある。
社会	5年生は2観点で正答率が目標値を上回り、6年生は2観点で正答率が目標値を上回った。「主体的に学習の取り組む態度」ではそれぞれ3ポイント、5ポイント上回っているが、基礎では5.6年生とも目標値を下回り、特に6年生は5ポイント低かった。単元の導入時に、児童の生活と関わるような活動や体験を取り入れた結果、学習に対する意欲は高まったが、学んだことを知識・技能として定着させる指導の工夫が必要である。
算数	観点別、基礎・活用の全ての項目で正答率が目標値を上回っている。4・5・6年生は、教科としての正答率が目標値をそれぞれ+3.7%、+7.3%、+2.8%と高く、少人数指導を行った成果が表れている。今後も、問題解決型の学習を意識して、一人一人の実態に応じながら、児童が課題を自力解決できるような授業を展開する。また、きたコン等のICTも活用して、自分の考えを友達と共有できるような場面も創出していく。
理科	4年生は観点別、基礎・活用の全ての項目で正答率が目標値を上回っているが、反対に6年生は全ての項目で正答率が目標値を下回っている。5年生は5年生は観点別で1項目、基礎・活用で目標値を上回った。経年変化で見ても、5.6年生は標準スコアを下回っている。学年があがるにつれて学習内容が難しくなるが、観察・実験からの結果・考察・まとめを丁寧に行い、知識・技能が身に付くような授業づくりをしていく必要がある。

本校の教育目標

やさしい子  
考える子  
健康な子

本校が児童に育成したい力

- ◎ 本校では、学習指導要領に示された基礎・基本を重視し、次の力を育成する。
  - 学ぼうとする意欲・態度・・・学習し続ける意欲をもたせ、学習への興味・関心を喚起させ、基本的な学習習慣を確立させる。
  - 自ら考え学ぶ力・・・思考力、判断力、表現力、理解力を育成する。基礎・基本となる知識を学ばせる。
  - 学んだことを生かす力・・・必要なときに生かすことのできる知恵と知識・技能を育成する。

学力向上にかかわる経営方針

- 研究・研修を大切に、分かる授業を目指し、実践を重ねる。次のことを推進する。
  - ア 基本的な学習活動を確立させる。
  - イ 一人一人の授業改善を図る。
  - ウ 基礎・基本の時間の活用、補習の推進等

校内における学力向上推進体制

各学年ごとに考察した結果と授業改善の視点を、職員会議で全体で共有する。様々な訪問指導等で、アドバイザーや管理職から指導を受けたり、校内研究で研鑽した内容を日々の授業で継続して実践したりする。

本校の授業改善に向けた視点

指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
・ 教材開発、教具の開発工夫	・ 年間指導計画を見直し改善する。	・ 一人一人が授業改善を図り、自らの授業力を向上させる。	・ 指導計画と一体化した評価計画により評価を行う。評価規準を明らかにし、個々の児童に応じた評価を行う。	・ 教育ボランティア、授業協力者など保護者や地域の教育力を活用する。体験的な活動、専門知識や技術に学ぶ活動、児童の興味・関心に応じた多様な活動を学習内容に取り入れる。
・ 学習形態・学習指導の工夫	・ 朝の基礎・基本の時間を活用し、反復指導、朝読書などを行う。	・ 教師全員が適宜、管理職に具体的な指導を受け、学習指導案を作成し、授業を実践することで、指導法の工夫改善に努める。	・ 児童相互による評価や自己評価、教員によるコメントを授業に応じて随時行う。	・ 感染症対策を十分行う。
・ ICTを活用した授業の実施	・ 補充的学習のため、学力PUを活用する。			
・ 教師の指導技術力の向上				
・ 課題解決学習の資質向上				
・ 他機関、企業との連携による単元開発				
・ 体験的な活動の重視など				

[様式2] 令和5年度 第2学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析  
東京都北区立堀船小学校

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
どの項目も目標値を上回っている。しかしほとんどの項目では区平均をやや下回っている。特に差が大きいのは、「漢字を読む」「言葉の学習」が2ポイントほど下回っている。一方で、唯一「文章を書く」は、5.9ポイント上回っている。	全ての項目で、目標値、区平均を上回っている。区平均と比べると、「知識・技能」は0.6ポイント、「思考・判断・表現」は0.8ポイント、「主体的に学習に取り組む態度」は4ポイント上回っている。	基礎は区平均を0.7ポイント下回り、活用は2.3ポイント上回っており、基礎が定着していない児童と、活用までできる児童との二極化が考えられる。特に、漢字の読み書き、言葉の学習を苦手とする児童が一定数いる。それらの指導を改善することが、読み取りの力の向上にもつながると考えられる。また、「主体的に学習に取り組む態度」を今後も維持し、さらに向上させたい。
算 数		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
どの項目も目標値を上回っている。区平均と比べると「3つの数の計算」が0.6ポイント、「長さ・かさ」が1.2ポイント下回っている。他の6項目は区平均も上回っており、特に「時計」「絵を使ったグラフ」が4ポイント以上上回っている。	全ての項目で目標値、区平均を上回っている。区平均と比べると「知識・技能」は1ポイント、「思考・判断・表現」は2.2ポイント、「主体的に学習に取り組む態度」は2.9ポイント上回っている。	区平均と比べて基礎は0.9ポイント、活用は2.5ポイント上回っている。国語と同様、基礎が定着していない児童と、活用までできる児童との二極化が考えられる。「3つの数の計算」「長さ・かさ」などの内容を中心に基礎的な内容の定着を図るとともに、活用の力をさらに伸ばせるようにしたい。

[様式2] 令和5年度 第3学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
目標値、区の平均ともにポイントが上回っていた。特に「文しょうを書く」「お話を書く」については目標値を20ポイント近く上回り、書くことについての定着がうかがえる。しかし、教科の正答率を見ると、活用の問題が基礎に比べて13ポイント低い。文意を把握してそれに正対した解答をしたり、話の中心を聞き取ったりする力をさらに高めていきたい。	「主体的に取り組む態度」は78.1、「知識・技能」は85.3、「思考・判断・表現」は79.7と、それぞれ目標値、区平均を上回った。	問われていることを適切に読み取り、答える力に課題があると感じる。話題や物事の中心点を正しく理解するためには、言語理解の力を高めなければならない。そのために、漢字の学習の際には、繰り返して書く活動だけでなく、国語辞典を使った意味調べを積極的に行っていく。また自分の考えが上手に伝わるよう、構成を考えたり、相手意識をもって考えをまとめたりする機会を設けていく。
算 数		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
8項目全てが目標値を上回っており、その内、5項目が区の平均正答率よりも高い数値となっている。特に、「かけ算」と「ひょうやグラフ」が90%を超えている。区の平均よりも5.5ポイント下回ったのは、「はこの形」であった。「たし算・ひき算」、「長さ・かさ」については、区と同程度であった。	全ての項目で目標値を上回り、区や全国の平均を超えている。「知識・技能」は、84.2%と高い数値であるが、区の平均と同程度であり、「思考・判断・表現」と「主体的に取り組む態度」が区の平均と比べ高い数値となった。特に「思考・判断・表現」は、4.8ポイントと区との差を広げ、高いものとなった。	データの活用が90%を超えており、記述式の回答で区の平均よりも+12.4ポイント、全国より+26.5ポイント高い。思考・判断・表現の力が区や全国と差で表れたのは、こうした結果の表れと考えられる。内容で見ると「はこの形」の数値が低いことから、直方体の面の形や頂点の数などの理解の定着を図る必要がある。

[様式2]

令和5年度 第4学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
<p>全ての内容で目標値を上回っている。特に「漢字を書く」、「物語の内よようを読み取る」内容は、10ポイント以上上回っている。一方で、「話し合いの内容を聞き取る」、「漢字を読む」、「説明文の内容を読み取る」、「調べたことをもとに文章を読み取る」に関しては区平均を下回っている。</p>	<p>全ての項目で目標値を上回っている。思考・判断・表現に関しては、2.3ポイント、主体的に学習に取り組む態度に関しては、4.4ポイント区平均より上回っている。一方で、知識・技能に関しては、区平均を0.5ポイント下回っている。</p>	<p>「言葉の学習」では、目標値、区平均を上回ってはいるが、その中でも、主語と述語の関係の理解に乏しい。また、説明文を読み取り、文章の中心となる語や文を見つけて要約をするということに課題がある。全体的に「読む」ことに関して、目標値は上回ってはいるものの区平均よりは下回っており、課題が見られる。</p>
算 数		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
<p>全ての項目で、目標値を上回っている。しかし、12項目中10項目は、区の平均を下回っている。区より高い内容は、「たし算・ひき算」、「表とぼうグラフ」であった。特に「たし算・ひき算」は、区より10ポイント近く上回っていた。下回っていた内容の中でも、「時ごとと時間」の項目が、区より、6.9ポイントも低く、課題であると考えられる。</p>	<p>全ての項目で目標値は上回っている。しかし、区と比較すると、全ての項目で下回っており、特に、「主体的に取り組む態度」が区よりも3.3ポイント低い。全国と比較すると、全ての項目で上回っており、特に「思考・判断・表現」で8.1ポイント上回った。</p>	<p>「時ごとと時間」の中でも、1分=60秒という知識理解は定着しているが、ある時刻から一定時間が経過する前の時刻を求める学習を求めることができるようになっていく必要がある。また、「主体的に取り組む態度」を向上できるように、手立てを講じていく必要がある。</p>
理 科		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
<p>30項目のうち19項目が目標値を上回っている。「音のせいしつ」と「じしゃくのせいしつ」は約10ポイント、「物の重さ」は約5ポイント下回っている。「植物の育ち方」、「こん虫の育ち方」、「太陽と地面のようす」、「じしゃくのせいしつ」、「電気の通り道」は目標値と同程度であった。</p>	<p>目標値(知識・技能66.7、思考・判断・表現力55.0、主体的に学習に取り組む態度42.0)と比較すると、「知識・技能」、「思考・判断・表現力」、「主体的に学習に取り組む態度」は約5ポイント上回った。</p>	<p>物のふるえを止めると音が止まることや磁石に引きつけられる物と引きつけられない物についての理解、磁石の極の確かめ方、形を変えても物の重さが変化しないことなどの知識・理解についての習得が必要である。また、問題の見だし、予想、実験方法を考え結果から考察する活動をしっかり押さえながら学習活動を進めていく必要がある。</p>

[様式2]

令和5年度 第5学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
8項目中5項目が目標値を上回った。「話し合いの内容を聞き取る」は目標値、区平均、全国平均に比べて正答率が低かった。また、「説明文の読み取り」では、区平均、全国平均より6～11ポイント下回る結果となった。「漢字の読み取り」も全国平均は超えたものの、目標値、区平均より5ポイント程度下回っていた。	3観点すべてにおいて、目標値は上回っていたが、区平均を下回る結果となった。特に「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」は、区平均より7%程度下回る結果となり、「主体的に学習に取り組む態度」は51.3%と低い傾向にあることが分かった。	「説明文の読み取り」や「漢字の読み取り」が低く、漢字については無回答が20%いたことから、言葉や漢字の意味を正しく理解することが大切だと考える。語彙を増やすことで、文章の内容を理解しやすくなるのではないかと。また、説明文の段落相互の関係を読み取ること、話し合いにおける意見の相違点の捉えが低かったことから、まとまりごとの要点は何かを考える機会を設けていく必要がある。
社 会		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
6項目中5項目が目標値を上回った。「自然災害から暮らしを守る(水害)」は、89.6%と多くの児童が正答していた。一方、「都道府県の様子」では、目標値55%、区平均59%、全国平均53%に対して、正答率49%と大きく下回る結果となった。	3観点すべてにおいて、区平均を下回っていた。特に、「知識・技能」については、区平均67.6%、目標値59.4%に対して、正答率57.6%と大きく下回る結果となった。	「都道府県の様子」・「知識・技能」が低かったことから、資料の読み取りに大きな課題があることが分かった。資料から適切な情報を選び取る力は今後の社会科学習においても必要になるため、地図、地形図の見方、八方位の正しい理解を復習するとともに、グラフや図、写真資料を積極的に活用した授業づくりをしていきたい。
算 数		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
10項目中全てが目標値を上回った。区や全国の平均と比べ7項目が上回り、3項目が下回る結果となった。特に差が表れたのは、「わり算・計算のきまり」で5ポイント下回った。反対に、「分数」は、9.6ポイント区や全国の平均を上回る結果となった。	3観点全てにおいて目標値、区の平均、全国の平均を上回る結果となった。区の平均と比べると、全ての観点が2ポイント前後の間で上回っている。	「わり算・計算のきまり」や「億と兆・がい数の表し方」の無回答数がそれぞれ12%、20%いる。( )や四則計算の混じった計算の補充学習を行ったり、求めた答えから、さらに説明文と関連させて考える発展問題にも取り組み、活用していく力を育成する必要がある。
理 科		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
12項目8項目が目標値を上回った。「自然の中の水」、「物のあたらまり方」は区平均、全国平均に比べても大きく上回っていた。一方で「月と星」は目標値から約6ポイント、区平均からも約8ポイント下回っている。項目によって差が大きく見られた。	「思考・判断・表現」の項目は、全国平均+0.9ポイント、区平均-0.9ポイントであった。「知識・技能」、「主体的に学習に取り組む態度」の項目は全国平均、区平均をともに下回っている。特に、「主体的に学習に取り組む態度」の項目は、全国平均と比べ6.2ポイントの差があった。	「基礎・活用」での正答率でも、領域別での正答率でも区平均、全国平均をともに下回っており、学習内容の定着に課題が見られる。「主体的に学習に取り組む態度」を育てながら、今年度の学習内容と関連付けて定着を図る必要がある。

[様式2]

令和5年度 第6学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
8項目中6つの項目で、全国平均を上回った。区平均は3項目のみ上回り、「言葉の学習」の項目が、3.4ポイント下回った。特に大きく上回ったのは、「漢字を読む」と「話し合いの内容を聞き取る」で、それぞれ全国平均を9.7ポイント、区平均を4.9ポイント、全国平均を13.1ポイント、区平均を4.1ポイント上回っている。	すべての項目で、区平均、全国平均を上回った。全国平均と比べると、どの項目も4ポイント以上上回り、特に「主体的に学習に取り組む態度」は、全国平均よりも5.7ポイント以上上回っている。	国語について、全体的には基礎・基本が身に付いていると言える。平均を大きく上回った「主体的に取り組む態度」を生かしながら、平均を下回った「言葉の力」を付けていくこと、個人差への対応に力を入れていく。授業の導入場面や基礎基本の時間に継続的に指導を行う。
社 会		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
6項目すべての項目で、区平均、全国平均を下回っている。区平均を大きく下回っているのは、「日本の工業生産」で-9.6、「日本の水産業」で-4.3である。	「知識・技能」「思考・判断・表現」の2つの項目で、区平均、全国平均を下回っている。「主体的に学習に取り組む態度」は、全国平均より3.1ポイント高い。	ほとんどの項目で平均を下回り、4教科の中で、最も課題が見られる。特に「日本の水産業」「日本の農業」「日本の工業」などの社会科の中心となる分野のポイントが低い。まず社会の事象に興味関心をもてる授業展開や学んだことを確かな知識として定着させる工夫をする必要がある。
算 数		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
10項目中、2項目が目標値を下回った。「比例・単位量あたりの大きさ」は、-0.6ポイント、「円グラフや帯グラフ・平均」は-3.3であった。反対に、「立体と体積」は、目標値を+7.1ポイント上回った。区の平均と比べると、「分数の計算」「面積」の2項目が上回った。	「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3項目で、目標値、全国平均は超えている。しかし、区の平均よりは全て下回っている。特に差が開いた「主体的に学習に取り組む態度」は、-4.9ポイントだった。	目標値を大きく下回った「比例・単位量あたりの大きさ」では、簡単な数に分数を置き換えたり、数直線を用いながら1単位量を求めたりする学習となるため、何を求められているのかを見極める力が必要となる。授業の問題から問われていることを考え、割合も同様、読み取る力を高め、必要な情報を抽出できる指導を行う。
理 科		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
12項目中7項目で、全国平均と区平均を下回った。特に「顕微鏡の使い方」で区平均-5.9ポイント程度と大きく下回った。区平均を上回ったのは「流れる水のはたらき」で+2.6ポイント、「ふりこのきまり」で+0.6ポイント、「物のとけ方」で+3.3ポイントである。	すべての項目で、全国平均、区平均を若干下まわっている。ポイントでいうと、-0~3ポイントなので、ほぼ平均と同等ではある。	各項目全体的に全国、区平均を下回る結果となった。そのため、基礎・基本的な知識を身に付けるための時間を授業内で確保する。また、実験や観察前では、「何を調べるために行うのか」、観察や実験結果から「何がわかったのか。」を十分に考えさせる時間を設けることで科学的思考力の向上、学習内容の確実な定着を図っていく。

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>正しい書き順、字形でひらがなを書くことに課題のある児童が見られる。</li> <li>拗音、促音の理解が不十分である。</li> <li>「は」「を」「へ」の使い分けについて、習熟が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日頃から丁寧にひらがなを書くように全体、個別で指導を行う。</li> <li>また、書くための時間を十分に確保できるよう、学習内容の精選を行う。</li> <li>言葉や文章を書く活動の充実をどの単元でも図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝学習の時間を利用し、プリント学習を継続的に行うことで、丁寧に正しい書字の定着を促す。</li> <li>間違いをそのままにせず、必ず直しをさせるように指導を徹底する。</li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎日の家庭学習で、新出漢字の練習や小テストの練習など漢字の学習を行っている。小テストは10問ずつ定期的に行っているが、まとめのテストでは定着が不十分な様子が見られる。また、言語面では、カタカナ、拗音、促音、「は」「を」の使い方の定着が不十分だったり、語彙が少ない児童もいる。個人差が大きいことから、個に応じた支援をさらに工夫する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小テストの回数を増やし、定着を図る。</li> <li>言語関係の習熟プリントを朝学習や宿題に取り入れていく。</li> <li>週末の日記の宿題を生かし、既習の漢字や言語事項、文章の組み立て等の定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>まとめのテストでは合格基準を設け、個別の配慮をしながら再テストを行う。</li> <li>プリント、掲示、板書等、個人差に応じた指導を工夫していく。</li> <li>きたコン「ライズeライブラリ」等を活用していく。</li> </ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎日の宿題で、音読や漢字の練習を行っている。2ヶ月おき程度に、それまでに学習した漢字の総復習として、様々な熟語での練習をさせ、語彙を増やせるようにしているが、なじみのない読み方の漢字になると書けない児童が多い。</li> <li>自分の言葉で表現して書ける児童も多いが、一人で考えて書くことが苦手な児童も多く二極化している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>語彙数を増やすために、国語辞典を多く引かせたり、熟語の読み書き練習を増やす。</li> <li>毎日のふり返りとして80～100字程度の文章を書けるようにし、書くことに慣れさせていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進度の速い児童に意味調べなどの発展学習をさせ、それを掲示や発表することで、全体にも共有できるようにする。</li> <li>ふり返りにコメントを入れることで、書く楽しさや伝える楽しさを実感できるようにする。</li> <li>ライズeライブラリやスタディサプリを活用していく。</li> </ul>
4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎日の宿題で、音読を取り入れてはいるが、図書時間などでの選ぶ本が本人の自由になっているため、漫画であることが多い。また、教材文でも「主語・述語」を意識して取り上げることはしていない。よって、活字を読むことに慣れておらず、漫画ではないため、誰が発した言葉なのか、誰の行動なのかを想像する力が乏しいと考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常的に活字での読書活動を推奨し、計画的に取り入れていく。</li> <li>作文など、「書く」活動を計画的に行い、自分の書いた文章を推敲する活動を取り入れる。</li> <li>文章を読ませたり書かせたりするときには、意図的に「主語」と「述語」の関係を抑える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>eライブラリ、スタディサプリ等を活用していく。</li> <li>3分程度で終わるプリント学習を定期的に行う。</li> </ul>
5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>言語理解に大きな課題が見られる。言葉の意味を適切に理解できていないために、何となく意味は分かるが、説明できなかつたり、活用できなかつたりすることにつながっているのではないだろうか。学習の中で、児童の理解が正しく深まっているのか教師の見取りが必要となってくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字の反復練習だけでなく、言葉の意味や使い方を辞書を活用しながら調べ、活用することができるようにする。</li> <li>読み取りの際には、事実と考えを分けて読み取ったり、段落の構成に気を付けて、話の要点や筋道を捉えられるようにしたりする。</li> <li>文章や自分の考えを記述する機会を意図的に多く設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>書く力はどの教科にも関連するものであるため、様々な場面で分かったこと、感じたことなどを文章で振り返る機会を意図的に設ける。他者意識をもたせ、相手に伝わりやすい文章について考える。作文や俳句作りを通して、「楽しい」「すごい」といった安易な言葉ではなく、別の言葉での表現を考え、共有し合うことで語彙を増やせられるようにし、表現力を高めていきたい。</li> </ul>
6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎日の宿題で、新出漢字の確認、練習に取り組んでいる。単元ごとに前日の宿題で練習してきた小テストを行い、できなかった漢字を確認し、直しを継続的に行う必要がある。</li> <li>自分の考えをまとめたり、伝えたりする活動を意図的に多く設定する必要がある。論理的に物事を考えたり、相手意識を高めて言葉を選んだり、表現を工夫したりする力を伸ばせるようにしていく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「聞きたい」や「困ったことがある」など児童にとって必然性のある交流の場を設定する。ワークシートを用いながら、同じ叙述や違う叙述を選んだ友達と段落や文章の前後を関係づけながら話し合う活動を設定する。</li> <li>登場人物の心情や説明文における筆者の主張などを整理し、理解するために、座標軸やベン図、クラゲチャートを用いる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国語だけに限らず、様々な場面で文章で振り返る機会を意図的に設ける。他者意識をもたせ、相手に伝わりやすい文章について考える。また、短歌や俳句作りを通して、「楽しい」「すごい」といった安易な言葉ではなく、別の言葉での表現を考え、共有し合うことで語彙を増やし、「言葉の力」を高めていく。</li> </ul>

[様式3]

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（社 会）

東京都北区立堀船小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
3年	・校外学習に出て体験を増やすことで、自分と地域のつながりが感じられるようにしたり、課題を見つけたりという社会科特有の学習の進め方は身に付いてきている。しかし、資料の読み取り方や、設問の答え方などがあいまいで、グラフの変化や、地図の描き方などの指導が必要である。また、地図の正しい読み取り方、地図記号についても計画的、継続的に扱っていく。	・グラフの目盛りや年代など、どれが何を表しているかを丁寧に確認し、一問一答形式で読み取り方に慣れさせていき、慣れてきたらグループやペアでの活動を通して、自分の力で資料を読み取れるようにしていく。また、そこからどんなことが考えられるかを意識して話し合えるようにする。	社会科だけでなく、算数の学習とも関連付けながら指導をしていく。ミニテストやプリントなどを行ったり、ライズeライブラリやスタディサプリを活用しながら、定期的に復習できるようにする。
4年	3年の身の回りの学習内容から4年生になって東京都や日本など範囲が大きくなった。資料を見ても何をどう読み取ればよいか困っている状況がある。そのため、グラフなら変化に着目すること、写真が2枚あるなら比較するなどの際に資料の読み取り方を指導する必要がある。さらに、自分の生活に繋げることができるように発展的な指導も欠かせない。	資料からの読み取ることができる事実とそこから自分が考えたり予想したりすることを分けるように指導していく。また、導入段階で自ら課題を見つけて授業を展開していく。調べた結果からさらに興味・関心を広げるという授業展開を実施している。新聞や、スライドの形にまとめ効率的に情報共有していく。	社会科見学、出前授業が多く設定されていた内容をどう補うか工夫していく。主体的に学習を進めていくことができるようにしていく。児童の興味・関心を喚起させて見学からさらに調べたいことを挙げさせる学習を展開していく。国語で学習した内容を関連付けてメモの取り方や新聞の書き方などに活用させていく。
5年	児童に提示する資料を工夫することで、興味関心が高まり、自主的に調べ学習に取り組む児童が増えてきた。資料活用の技能の項目が低かったことから、グラフの見方や資料の読み取りなどを丁寧に指導していく必要が考えられる。	日々の学習の中で、地図帳や資料集を活用する機会を意図的に設けるようにし、社会科に関する資料が児童自身にとって親しみやすいものである実感をもてるようにする。また、グラフや地図から、どんなことが読み取れるのか、どこに注目する必要があるのかなど、視点を明確にすることで適切な読み取りができるようにする。	単元の終わりに学習したことを新聞にまとめる活動を行う。その際には、出来事を深く調べたり、比較して考えたりするなど、明確な目的やテーマをもってまとめられるようにする。また、学習に関連のある日常の出来事やニュースを積極的に紹介することで、学習と生活の結び付きを意識付けられるようにする。
6年	「日本の水産業」「日本の農業」「日本の工業」などの社会科の中心となる分野のポイントが低いことから、資料を基に社会的事象について追究し、考えを共有する時間がより必要である。また、基礎的な知識の定着を図るために演習も欠かせない。	社会的な見方・考え方を働かせるために、写真やグラフ、地図、年表、などを関連付けて考えられるよう資料を工夫する。学習課題を設定する際は、児童が興味・関心をもつものか、必要感のあるものかを吟味する。学習した内容を振り返り、考えをまとめたりすることができるよう板書には資料やキーワードを残しておく。	学習内容の定着を図る目的として、クイズやミニテスト等を用いたり、授業の始めに前時の復習として大切な言葉を声に出して言わせたりして、関心を高めながら学習に取り組ませる。歴史に関しては、興味をもった人物について調べて新聞をつくるなど、自分自身で掘り下げて学習していく力をつけられるように工夫する。



〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（算 数）

東京都北区立堀船小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数字の書字が煩雑になることがある。</li> <li>・足し算、引き算の計算の正確さにやや欠ける児童が見られる。</li> <li>・文章問題で何を聞かれているのか、問題を把握する力が十分に身に付いていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正しく、丁寧に書くことを継続的に指導する。</li> <li>・授業の導入で足し算や引き算に取り組む機会を設けたり、計算カードを活用したりして習熟を図る。</li> <li>・問題文の「分かっていること」と「聞かれていること」にそれぞれ下線を引くよう指導し、問題文をよく読む習慣を付けさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝学習の時間にプリントやきたコンを活用して、計算問題や文章問題に取り組ませる。</li> <li>・家庭でも学習に取り組めるよう、きたコンで問題を配信したり、プリントを用意したりする。</li> </ul>
2年	<p>毎日の家庭学習で学習中の単元の復習、習熟問題に取り組ませているが、丁寧に取り組みなかつたり、不十分だったりする児童もいる。基礎的な計算は大体できるが、少しでも問題の意味の読み取りが必要であるような問題には、困難を感じる児童が多い。問題の読み取りの力をつけることが必要である。また、見直しが不十分な児童もいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の中で、丁寧なノート作りや計算の確かめを習慣付けたり、できている児童を取り上げ、価値付けしていく。</li> <li>・問題文の分かっていること、問われていることを確認したり、図や絵に表してみたりしながら、問題の読み取りの力をつけていく。</li> <li>・授業や朝学習の中で様々な問題に取り組ませ、確認していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力パワーアップの教員と児童の実態を共有ながら連携し、基礎基本を定着させる。</li> <li>・補充プリント、発展プリントを充実させ、取り組ませていく。</li> <li>・朝学習や家庭学習の内容を工夫していく。</li> </ul>
3年	<p>「はこの形」などの図形問題のポイントが低いことから、箱の形の構成要素や点と線による構成など、模型などの教具のみでなく、身近な物へ興味を向けられるようにしていく必要がある。また、ICTのデジタル教科書などを適宜活用して、図形を捉えられるようにしていく必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・算数用語を繰り返し用いたり、「そのわけは、・・・だからです。」など伝えるための話形を紹介するなどして、児童の言葉から根拠や理由を簡潔に説明できるようにしていく。</li> <li>・身近な場面や身近な具体物を用いて授業を行い、デジタルコンテンツを有効的に扱い、数的感覚や量感、直感力や判断力を高めていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・算数の学習につながる日常の経験を多く取り入れる。</li> <li>・学力パワーアップ教員と連携して、計算練習など同じ問題を繰り返し練習し、解き方を身に付けられるようにしていく。</li> <li>・書くことに支援を要する児童には、重要な語や数のみでよいことや穴埋め式のまともにして、あくまで問題を解決していくことに意欲が向くように指導者が共通理解を進めていく。</li> </ul>
4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題の解き方は分かっているがその根拠や理由が表せない児童がいるため、ノートや北コンを通して考えを説明できる力を育成していく必要がある。</li> <li>・正解を求めすぎると、発言者が固定し、受け身的な授業となる。考えたことや考えがもていないことを自由に表現できるように、問題の提示やめあてのめたせ方を工夫していくことが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロイロノートなど学習コンテンツを用いながら、多様な考えを出し合い、図や絵から根拠や理由が説明できるようにしていく。</li> <li>・例えば、角度の学習では、<math>0^\circ</math> から読むことの理解が難しい児童もいるため、足の開きや腕の開きなど体を動かし体感的に角度や位取りが感じられるような体験型の指導法も取り入れ、工夫していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自力解決できる児童は友達は何が分かっている、どのように考えようとしたのか他者理解の時間を取り入れ、共感したり、疑問をもったりしながら問題を解決できるようにする。</li> <li>・補充コースでは、問題文を短く区切って問題を捉えやすくしたり、反復練習や立ち戻り学習を行ったりする。</li> </ul>
5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自力解決の場面で考えの根拠や理由を説明できる力や友達の考えを解釈しながら聞くことが課題である。</li> <li>・自力解決の場面で問題を解決するための糸口がつかめない児童は、比較・検討の際に聞き手側になりやすい。こうした児童が主体的に参加できるようにしていく必要がある。</li> <li>・既習の学習を振り返る習慣をつけていく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自力解決の場面で思考ツールを提示し、多様な考え方を認める授業を展開していく。</li> <li>・解決の糸口がつかめない児童には、アドバイスやヒントを与えたり、分かっていること、分からないことを言葉で示せるようにして、主体的に学習に参加できるようにする。</li> <li>・分からないことがあったら、ノートを見返す声掛けを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補充学習を必要とする児童を取り残さないよう、少人数算数担当と担任で話し合い、必要と判断した場合には、補充学習を適宜取り入れ、他の児童は発展問題に取り組めるようプリント学習を行う。</li> <li>・既習のテストやプリントを繰り返し解くことで、問題の解き方が身に付くようにしていく。</li> </ul>
6年	<p>割合の学習や1単量あたりの計算は、毎年6年生のつまづきの多い学習内容である。特に全体を1としてとらえることや、文章題から何を求めればよいのか読み解く力が重要となる。数直線や関係図を用いたり、簡単な数字に置き換えるなどしながら求められる量やもとにする量を決定できる力をつけることが課題である。</p>	<p>図や関係図、表や絵など多様な考え方をさせただけでなく、割合や1単位あたりを求める学習では、特に数量の比例関係を理解することが重要なため、比例関係を捉えやすい板書を行ったり、関係図を繰り返し扱ったりすることで、図から式の理解が分かるようにしていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・比例関係の理解に苦しむ児童には、簡単な数に置き換えるなど、別の手立てを用意し、スモールステップで比例関係がつかめるようにしていく。</li> <li>・教科書の「いかしてみよう」や「算数の目」など、発展問題にも挑戦できる機会を設けたり、学習コンテンツを活用したりして、意欲を高めていく。</li> </ul>

[様式3]

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（理 科）

東京都北区立堀船小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
3年	観察の観点や問題の見付け方はできる児童が多いが、「頭」「胸」「腹」「昆虫」「根」「茎」「葉」などの名称をあいまいに覚えている児童も多く見られるので、復習を定期的に行って定着を図る必要がある。	身近な事象から自分たちで問題を見付けることを重点に置いて指導をしていく。疑問に思ったことを自分たちで解決していけるのだと実感させることで、意欲を高めていく。実際に触れてみる、実験してみるなどの多くの体験をすることで、学習内容の定着を図る。	PCを使って画面共有機能を有効に活用していくことで、興味の範囲を広げたり、他の児童の方法を取り入れたりして、知識や技法（調べ方・まとめ方）のバリエーションを増やせるようにする。また、スクールタクトやeラーニングを使って繰り返し復習をしたり、個に応じて課題に取り組んだりさせる。
4年	「電池のはたらき」「天気や気温」「どこめた空気や水」で、実験・観察・結果の記録をしたが、結果を整理する段階で問題と結果が結び付かないことがあった。出た実験結果を基に、考察する力が定着していない。道具の扱いは、継続的に扱っていくことで、正しい使い方を身に付けていけるよう指導が必要である。	生活の中や既習学習から根拠のある予想を立てさせていく必要がある。根拠のある予想を立てることで、結果からの考察がしやすくなる。また、実験を行う際に方法を児童と一緒に考えていくことで、実験を正しくスムーズに行うことができるようにしていく。4年生後半では火を扱う実験場面が多くなるため、安全面には十分留意する。	理科支援員と協力し、安全に実験を行う環境を作っていく。実験を行った際に結果の共有を行い、同じ結果でも異なる結果が出た際になぜその結果になったのかを考える。そして、正確な実験結果が得られるように再検討していく。タブレットや発表ボード等による、情報共有、集団検討の学習スタイルを継続していくことで、練り上げの時間を十分にとれるようにしていく。
5年	基本的な知識は身に付いているが、各単元で扱った観察や実験を一般化することや自分の思考を記述で表すことに課題がある。また、「植物の発芽と成長」では表を活用し、条件を制御した実験方法を重点的に指導したが、表の読み方自体の理解が不十分な児童も見られた。問題の本質に沿った方法を考えたり、結果から考察、結論につなげたりすることで確かな知識として定着を図る必要がある。	児童一人一人が自分の考えを表現し記述できるように、根拠のある予想を立てさせることを重点的に指導する。また、実験だけでなく、結果の確認や考察の内容について個、グループ、全体での話し合いを充実させていく。友達の考えや表現の仕方を学ぶことで児童が自分の考えの表現方法として生かせるようにする。	理科支援員との連携を図る。チームで実験した内容をICTを活用し、共有・比較することで集団で検討ができるようにする。また、単元最後には学習内容を確かめる習熟の時間をとり、問題文に応じた記述の仕方を理解させたり、知識を定着させたりしていく。
6年	自分の考えを表現するための、基本的な知識の定着がまだ不十分である。また、その実験をすると何が分かるかという見通しをもって、実験方法を考えていないと考えられる。問題、予想、方法、結果、考察、結論がつながるような思考の流れを指導していくことが必要である。	実験計画を立てる際は、実行できる計画か、実験した結果で問題が解決できるか、条件制御できているかの3つの視点をもって話し合いながら計画を立てられるようにする。「考察」についても予想・仮説と比べて結果はどうだったのか表やグラフにまとめ、規則性や関係性を捉えやすくする。	理科支援員との連携を図る。チームで実験を行い、友達との関わりの中で、友達の考えや表現の仕方を学び、自分に生かせるようにする。実験がうまくいかなかった際に、どうしてうまくいかなかったのかを振り返らせ、もう一度実験する時間の確保に努める。